

**情報共有**

(4枚: 非管理メモ)

官邸班、NISA班 ← フォルス対応班

※ NISA 令室お渡し済み

本店レク 議事メモ

日時: 平成 23 年 6 月 3 日 (金) 11:00~12:10

場所: 東京電力本館 3 階大会議室

先方: 記者約 35 名 (カメラ 4 台)

当方: 原子力・立地本部

原子力設備管理部

本店広報部

## 配布資料:

- ・ 東北地方沖地震による影響などについて (6月3日午前9時現在)
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (6月3日6時現在)
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果 (6月3日)
- ・ 福島第一原子力発電所 モニタリング結果他
- ・ 福島第一原子力発電所 3号機取水口付近からの放射線物質を含む外部への流出に係る対応に関する経済産業省原子力安全・保安院への報告について (その2)

より配付資料に関して説明。

## 質疑:

- Q. 滞留水の水位変動評価の予測評価ケース4つの中で東京電力が実施するのはどれか。  
A. ケース1である。2号機復水器 (約 800m<sup>3</sup>)、3号機復水器 (約 2000m<sup>3</sup>)、プロセス主建屋水地下1階の最下端貫通部まで (約 1500m<sup>3</sup>) へ移送できるよう準備を進めている。このケース1でいくと2号機建屋水位は6月20日でOP. 3,840mm程度である。
- Q. 滞留水を減らしていくために、原子炉への注水量を減らしていくことは考えていないのか。  
A. 滞留水を減らしていくことは考えているが、現在、3号機の圧力容器の温度が少し上昇気味であるので、温度が安定するまでは3号機の原子炉注水量 (11.5m<sup>3</sup>/h) を減らすという段階ではない。
- Q. ケース1が計画通りいかなければ、原子炉注水量を減らすことも検討するのか。  
A. 原子炉への注水量は、滞留水よりも圧力容器の温度の方が判断基準となる。ケース1で計画通りいかなければ、ケース2であるプロセス主建屋の地下1階のサブドレン水位から90cm下まで (約 2,500m<sup>3</sup>)、1号機復水器 (約 1200m<sup>3</sup>)、高温焼却炉建屋地下2階 (約 1000m<sup>3</sup>) の3カ所を移送先として準備していく。
- Q. 建屋水位が OP4000mm に到達するのはいつか。  
A. 現在の予想では最短で6月20日に到達する。

Q. 高レベル滞留水の放射性物質濃度の総ベクレル数は。

A. 72万テラBqである。

Q. 滞留水量の評価には、各号機の廃棄物処理建屋の水量も含んでいるのか。

A. 各号機の廃棄物処理建屋の滞留水量も含んだ評価である。

Q. 今回の滞留水の評価には、今後の降雨量の評価は含んでいるのか。

A. 降雨量は評価に入っていない。現在の滞留水と原子炉注水量を評価の対象としている。5月28日17時から6月1日17時までの総降雨量が約145mmであり、このうち2号機建屋へ約68%、3号機建屋は約52%が水位上昇に寄与している。今後、このような豪雨などがあると、シミュレーションより早く建屋水位はOP4000mmに到達する可能性はある。今後、タービン建屋の屋根の穴に対して、土のうやビニールシートなどで雨水の流入を防いでいく。

Q. 水処理システムの運転が遅れた場合のリスクをどう評価しているか。

A. 現時点で水処理システム全体が遅れるという見通しはない。ほぼ放射能処理装置の設置工事は完了しているので、間もなく試運転が開始できる。6月15日頃には、装置は稼働できると思う。

Q. 1Fの滞留水の放射性物質濃度の総ベクレル数である72万テラBqは、通常運転時に福島第一原子力発電所から年間に放出される放射性物質濃度の何倍となるのか。

A. 発電所全体での年間放出管理目標値が $2.2 \times 10^{11}$ の11乗であり、その約324万倍。なお、本滞留水は、環境に放出されておらず、建屋内にある水ということをご認識いただきたい。

Q. 1号機R/B地下の滞留水は、2号機建屋側に流入しているという認識でよいか。

A. その通りである。

Q. 1号機R/Bの滞留水の水位が1号Rw/Bの水位よりも高いが、どのような認識か。

A. 今回の5月28日から6月1日の降雨の影響ではないかと思う。今後、1週間程度は1号機R/B地下の水位は低下傾向になり、1号Rw/B、さらに2号機建屋側へ流入していくのではないかと思う。

Q. 1号機原子炉建屋の地下水の滞留水が2号機建屋側より雨水の影響を受けたのは、1号機R/Bには屋根がないが、2号機R/Bには屋根があるためと考えて良いか。

A. その通りである。

Q. 1号機R/B地下に水位計を設置して以降上昇傾向であったことに対してはどのような認識か。

A. 最初に大きく上昇した要因は雨水の流入の影響ではないかと思う。現在は、流入量より、流出量の方が大きいので減少傾向になっているのではないかと思う。

- Q. 雨が降る前から、1号機R/B地下水が原子炉から漏れて溜まっていたとすると、2号機建屋側よりも水位が高いので、水位は上がらずに、下がっていくのではないか。
- A. 1号機水位計をつけた時点で、最初に溜まり水を発見したときより数十cm増えていた。その後、先日の雨により水位の上がり方が大きくなり、その際に新たな流出経路が出来て、1号Rw/Bへの流入量が大きくなったのではないかと思う。
- Q. 最初に水位計を設置したときの原子炉建屋の地下水の水位のOPと、測定の中での最高値のOPは。
- A. 19日の午前7時の段階でOP4, 275mm。最高水位は5月31日17時のOP4, 865mm。測り始めてから590mmの上昇。その後水位は減少に転じた。
- Q. 72万テラベクレルは予想していたのか。また、今後の処理が大変になると思うがどうなのか。
- A. 2号機のたまり水の測定をした際に10の6乗ベクレルと把握できていたなどから、予想の範囲内。また、年内20万トン強の処理計画には大きな変更はない。
- Q. 報告書によると“高温焼却炉建屋への移送再開には所要の検討が必要”とのことだが、漏水の止水が必要ということか。
- A. 高温焼却炉建屋において、地下通路側への漏洩が確認されていることから、本建屋への再移送については検討が必要と考えている。
- Q. 高温焼却炉建屋への移送可能量が4,000m<sup>3</sup>から4,800m<sup>3</sup>に増えたのはなぜか。
- A. 当初、高温焼却炉建屋への移送は4,000m<sup>3</sup>で計画していたが、地下水位の状況や建屋の床面積を詳細に評価した結果4,800m<sup>3</sup>が可能と判断したもの。あと1000m<sup>3</sup>入れられると考えているが、地下通路への漏れが確認されていることから、本建屋への移送については検討が必要と考えている。
- Q. 3号機T/Bの天井の穴を塞ぐとの話があったが、なぜ穴が開いたのか。
- A. R/Bのオペフロが水素爆発で崩壊した際に、コンクリートの破片などで穴が開いたと考えている。
- Q. 6月15日に汚染水の処理システムが稼働するとのことだが、循環注水冷却システムに向けたプロセスは。
- A. 原子炉に戻す水として、塩分を取り除いた水をタンクに一定量溜める必要である。また、タンクから原子炉へのホースを引き回す必要があると考えている。
- Q. 3号機T/Bの屋根を塞ぐことで、どれくらいの水量を抑制できるのか。
- A. 具体的な水量は評価していない。なお、1・3・4号機のR/B上部から雨水は浸入してくるが、建屋周辺の開口部は土嚢を積んで水の侵入を防ぐ方針。
- Q. OP4,000に到達してすぐに漏洩することは考えにくいということか。

A. OP4,000 レベルの縦坑・電源ピットは全て閉塞したことからすぐに漏れることはないと思量。ただし、立坑・トレンチのヒビがあった場合、そこから地面に流入し地表に出てくることが考えられるので、OP4,000 を超えないように管理していきたい。

Q. 1号機R/Bから外に漏れ出すことはないのか。

A. 地下水位の方が高いことから水圧はかかっている状態。ただし、6号機で地下水が建屋内に流入していることから、逆に考えると建屋からの流出を完全に否定することはできない。

Q. 2号縦坑から復水器へ600~800トンのたまり水を移送するとのことだが、どれくらいかかるのか。

A. ポンプの性能が10~12/hであることから80時間程度。

Q. 今回の評価には雨入っていないとの理解でよいか。

A. その通り。今後、建屋の水位については日々監視するが、雨水の浸入が多くなると現状の想定よりも早くOP4,000に到達することとなる。従って、状況を随時確認しながら、プロセス主建屋等への移送を行っていく。

Q. C/B・Rw/Bは何の略なのか。

A. C/Bは制御室の入っているコントロールビル。Rw/Bは廃棄物処理建屋、ラドウエストビルディングの略。

Q. プレス添付資料4に記載されている、Rw/B・C/Bなどの水位はそれぞれ現場確認したのか。

A. その通り。それぞれ確認した日付は確認。

Q. 2~4号機R/Bは現場をみれていないということだと

A. たまり水がないと考える方が不自然と考えて、このように評価した。

Q. サイトバンカー等の止水工事はいつ行うのか。

A. 容量が大きくないことから評価には入れていないが、止水工事は初めている。

Q. 2号機SFプールの温度が下がってきているが、R/B内の環境が良くなったなどは確認できているのか。ブローアウトパネルからの湯気は収まっているのか。

A. R/B内には入っていないことから、確認できていない。ブローアウトパネルからの水蒸気が収まっているという報告はきていない。

Q. 2号機SFプールの温度低下を受けて、次に行うことは何か。

A. 温度、線量、ダストなどの環境測定を行うこととなると思量。具体的な計画はないが、近々決まると思う。

以上